

TOPICS 1

平朝彦理事長が就任

2012年4月1日付で、新しく平朝彦が理事長として就任しました。



TOPICS 2

麗水（ヨス）国際博覧会海洋ベスト館への出展と船舶の寄港

「生きている海と沿岸」をテーマに2012年5月12日から8月2日まで韓国全羅南道麗水（ヨス）市で2012年麗水国際博覧会が開催されました。JAMSTECでは海洋ベスト館に研究成果や「しんかい6500」に関する技術等を出展するとともに、深海潜水調査船支援母船「よこすか」及び有人潜水調査船「しんかい6500」が博覧会場の港に寄港し、一般公開が実施されました。



TOPICS 3

有人潜水調査船「しんかい2000」が新江ノ島水族館へ

我が国初の本格的な深海有人潜水調査船「しんかい2000」が神奈川県藤沢市の新江ノ島水族館で展示されることになり、移設されました。「しんかい2000」は、深度2,000mまで潜航できる有人潜水調査船で、1981年に完成、2002年11月11日に、第1,411潜航を無事終えた後、活動を休止し、2004年3月に廃船となりました。



TOPICS 4

横浜研究所と地球シミュレータが10周年を迎える

2002年に開所した横浜研究所と、同年に稼働を開始した地球シミュレータが10周年を迎えました。これを記念してシンポジウムや一般公開、記念式典が開催されました。



TOPICS 5

「東北マリンサイエンス拠点形成事業」のウェブサイトの公開

「東北マリンサイエンス拠点形成事業（海洋生態系の調査研究）」は、東北大学、東京大学大気海洋研究所及び JAMSTEC が中心となって実施する事業で、東日本大震災で被害を受けた東北沖の海洋生態系を復興させるため、全国の大学や研究機関等による復興支援のためのネットワークとして「東北マリンサイエンス拠点」を構築し、地元自治体や関係省庁等と連携しつつ、東北の復興を図るため東北沿岸域からその沖合海域における海洋生態系の調査研究を実施するというもので、本事業の公式ウェブサイトを公開しました。



<http://www.i-teams.jp/>

TOPICS 6

「しんかい6500」世界周航航海「QUELLE2013」の実施

JAMSTEC では海洋の極限環境に生息・発達する多様な生物群を調査し、それらの生物が有する様々な生命維持機能等、極限環境への適応機能を理解する事を通じて、生命の起源と進化のメカニズム、地球環境変動と生物の関わり合いや将来予測などの研究を推進しています。その一環として、2013年1月から有人潜水調査船「しんかい6500」及び支援母船「よこすか」を用いて、インド洋、大西洋、太平洋の高温熱水域などの特異かつ極限的な海洋環境域に成立する生態系について、地球規模の調査・研究を実施するため、約1年間かけて研究航海「航海名称:QUELLE (クヴェレ) 2013」を行っています。



Quelle2013の航路図

※ Quelle (クヴェレ) とはドイツ語で「起源」、「源泉」という意味です。この単語と生命の起源の探るという意味の「Quest for Limit of Life, 2013」とを掛け合わせ（下線部）、航海名称として採用しました。

<http://www.jamstec.go.jp/quelle2013/index.html>

TOPICS 7

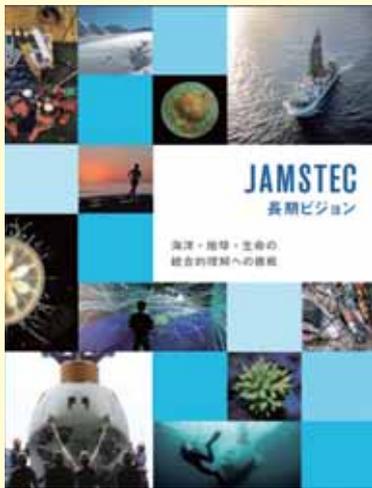
「長期ビジョン～海洋・地球・生命の統合的理解への挑戦～」の策定と公開

JAMSTEC は、我が国における海洋科学技術の総合的な研究機関として、これまでに様々な研究開発を行ってきました。

近年、東日本大震災を転機とした国の政策等の見直しや、

JAMSTEC の研究開発の分野・領域を超えた大きな進展、研究開発成果の社会還元への対応強化など、情勢の変化に対応していくことが求められています。

そこで、これらの情勢を踏まえながら、これからおよそ15年先を見据えて、その目標と到達するためのアプローチを再考し、新たなビジョンとして「長期ビジョン～海洋・地球・生命の統合的理解への挑戦～」を明示することとしました。



<http://www.jamstec.go.jp/j/about/vision/>

TOPICS 8

淡青丸が退役

2013年1月31日、学術研究船「淡青丸」は退役しました。

1982年に建造された淡青丸は、2004年の独立行政法人海洋研究開発機構の発足とともに、東京大学海洋研究所（当時）から移管され、相模湾や駿河湾、熊野灘、三陸沖など、主に日本近海で、海洋に関するあらゆる分野の基礎的な研究を行うための研究船として約30年に渡り活躍しました。



※主要目 全長51.0m 幅9.2m 深さ4.2m 喫水5.0m
国際総トン数610トン 航海速力約12ノット
航続距離約6,200マイル
定員38名（乗組員23名／研究者等15名）
主推進機関 4サイクルディーゼル機関750ps×2台（2機1軸）

TOPICS 9

新青丸が進水

2013年1月に退役した「淡青丸」の後継船として、山口県下関市の三菱重工業（株）下関造船所で建造された東海洋生態系調査研究船「新青丸」は2013年2月15日に命名・進水式が行われました。国際総トン数は「淡青丸」の約2.5倍の約1,600トンで、様々な最新鋭の観測機器を搭載し、東日本大震災の地震・津波により劇変した東北沿岸域の海洋生態系を調査します。船籍港は岩手県上閉伊郡大槌町です。



※主要目 全長 66.0m 幅 13.0m 深さ 6.2m 喫水 4.5m
 国際総トン数 1,629トン
 航海速力約 12ノット 航続距離約 6,500マイル
 定員 41名 (乗組員 26名 / 研究者等 15名)
 主推進機関 推進電動機 (1,300kW × 2基)
 主推進器 アジマス推進器 (2基)

TOPICS 10

海洋研究開発機構

アドバイザリー・ボード第1回会合を開催

2013年3月18日から20日にかけて、横須賀本部及び横浜研究所において、「海洋研究開発機構アドバイザリー・ボード」の第1回会合が開催されました。アドバイザリー・ボードは、米国ウッズホール海洋研究所の Susan K. Avery 所長が議長を務め、委員としては豪州、仏国、独国、日本、韓国、英国、米国の海洋研究機関のトップリーダーや専門家が参加しました。委員は、JAMSTEC の概要、主な研究開発成果等について説明を受け、無人探査機や「地球シミュレータ」などの機構の施設を視察し、JAMSTEC の研究及び技術開発の現状と今後の方向性、研究組織のマネジメント、大学や海外の研究機関との連携などについて、活発な議論を行いました。



http://www.jamstec.go.jp/j/jamstec_news/20130418/